

普及活動の成果

様式6(左)

課題名 : 「ゆめのか」拡大による次世代につなぐいちご産地づくり 振興局名 : 県北振興局
活動対象 : JAながさき西海いちご部会 実施期間 : 平成29年4月～平成30年3月

【対象の概要】

佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町のいちご生産者で構成されるいちご生産部会。
農家戸数87戸(うち、認定農業者62戸)、いちご栽培面積は13.4ha。

【課題設定の背景】

いちごの多収性品種「ゆめのか」は大玉で連続出蓄性があり、高収量が見込める品種で、「ゆめのか」を導入することで収量が向上して所得向上につながる。導入推進の結果、県北地域での平成28年産栽培面積は12.4haまで広がった。

1. 高齢化等により、栽培者数・産地面積は縮小傾向にある。将来的な産地強化を図るためには、担い手の育成や「ゆめのか」の栽培対策支援、労力支援を強化していく必要がある。
2. 自動換気装置や炭酸ガス発生装置等の環境制御システムを導入している生産者は増加している。ハウス内環境を把握し、適切な管理方法・技術支援を行う必要がある。

【活動目標】

1. パッケージセンターの定着等労力支援や研修会を通じて若手生産者の経営力・技術向上を支援し、「ゆめのか」に対応できる産地づくりを支援する。また、「ゆめのか」の栽培対策支援により収量の向上を目指す。
2. 複合環境制御技術の確立支援、勉強会立ち上げ支援により収益性向上を目指す。

【関係機関との連携(活動体制・役割分担)】

いちご担当者会を開催し、活動に対し関係機関と協議を行った。

1. 労力支援 : JA、市町、振興局
2. 県北若手いちご塾 : 振興局、JA、市町
3. 栽培対策支援 : JA、中央会、技術普及班、振興局
4. 複合環境制御技術確立支援 : 振興局、技術普及班、JA

【活動経過】

1. パッケージセンター定着支援
 - (1) 佐世保部会において試験運用がH29年4月10日から開始され、農協、部会と連携し作業員や利用農家の意見聞き取りやパック詰め実績を確認した。
 - (2) H29年産はH30年3月から稼働することが部会役員会で決定されたため、利用料金や運用体制について助言を行った。
2. 県北若手いちご塾
 - (1) 市町、JAと研修会の内容を検討し、7月18日及び1月23日に現地での技術研修会や優良事例視察研修を開催し、延べ35名の出席があった。
3. ゆめのか栽培対策支援
 - (1) 「ゆめのか」の栽培支援として、年間の栽培にあわせた定期的な指導支援を実施した。
 - (2) JA中央会、農協と連携し、平戸(17名)及び佐世保(12名)部会員に対して、経営改善面談を行い、前年産の課題の把握とその改善のための対策、今年産の目標設定について指導した。また、目標に対する進捗状況を個別巡回等の折に確認し、対策を指導した。
 - (3) 受入団体等登録制度における就農コンシェルジュの設置を部会に依頼した。
4. 複合環境制御技術確立支援
 - (1) 環境制御技術に特化した勉強会を生産者5名および関係機関担当者で11月より実施し、環境制御技術の理解を促し、栽培管理の改善による収量向上を図った。

【普及活動の成果】

1. いちごパッケージセンター定着支援

(1) 試験運用は4月10日から5月20日までの34日間で実施され、利用農家5名、作業員常時4名、臨時5名で、実績は7,219パック、1パック当たり経費が70.5円(試算時の目標は38.5円)となった。

2. 県北若手いちご塾

研修会を通じて栽培技術の習得のみならず、地域を越えた生産者間の交流が図られた。

3. ゆめのか栽培対策支援

(1) H29年産「ゆめのか」作付面積は12.5ha(前年12.4ha)で、作付割合は93%(前年87%)と前年に比べ品種転換は進んだものの、部会の全面積が13.4ha(前年14.2ha)で、生産者の高齢化に伴うリタイヤや規模縮小により前年比94%に減少したため、目標達成には至らなかった。

(2) 経営改善面談の実施により、生産者自らが前年産の課題とその対策を検討し、経営目標を設定し、経営改善の意識が高まった。

(3) 部会内に就農コンシェルジュ17名が設置された。

4. 複合環境制御技術確立支援

(1) 勉強会を通じて環境制御技術に対する生産者の理解が向上するとともに、数値化されたハウス内環境データを基に意見交換を行うことで各自の栽培管理の改善点が明確となり、適正な管理がなされ、厳寒期の安定生産につながっている。

【対象の声】

新規ベンチ栽培者や単収の底上げが必要な部会員に対して指導強化をお願いしたい(部会長)。環境制御技術については時期ごとの草姿の目安があれば良いと思う。今後一層の技術支援をお願いしたい(普及指導協力員)。

【今後の課題】

1. いちごパッケージセンター定着支援

(1) H28年産の実績を参考に3月からの稼働に向けて、利用農家の把握と作業員の確保支援を行い、円滑な運用への助言を行う。

2. 県北若手いちご塾

(1) 研修会に対する生産者及び関係機関の意見を聞き取りし、次年度以降の研修会の内容に反映し、産地を牽引する担い手の育成に努める。

3. ゆめのか栽培対策支援

(1) 「ゆめのか」の長期安定生産に向けて、関係機関と連携し現地指導を行う。

(2) 経営改善面談で各生産者が設定した目標達成に向けて、適宜助言を行うとともに、収穫終了後に、目標の達成状況を生産者、農協、振興局で確認し、次年産に向けた改善点を整理する。

(3) 産地面積の減少に対して、部会も危機感を抱いており、現在、研修中の就農希望者3名に対する就農支援への要望が強いことから、市町、農協、就農コンシェルジュと連携し、就農希望者の施設整備や栽培技術の支援を行い、確実な就農につなげる。

4. 複合環境制御技術確立支援

(1) 勉強会の目標(収量10%アップ)の達成状況を把握するとともに、勉強会のやり方を検証し、次年度以降のより効果的かつ効率的な実施につなげる。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

1. 就農希望者の就農定着支援や新規就農者の確保をJA、市町と連携し行っていく。

2. 環境制御技術の推進を強化するために、ハウスごとの環境制御機器導入状況を把握し、段階的な技術推進を図っていく。

【発表・参考資料】